

平成28年度

入学者選抜要項

平成27年7月



変化する、そして進化する。

大分大学

目 次

	ページ
福祉健康科学部（仮称）の設置及び教育福祉科学部の改組について……………	1
医学部看護学科入学者選抜方法の変更について……………	6
アドミッション・ポリシー……………	7
1. 募集人員……………	23
2. 入学者選抜実施日程……………	24
3. 入学者選抜方法等……………	25
(1) 一般入試……………	25
①志願学部・学科等……………	25
②出願資格……………	25
③入学者選抜方法……………	26
④平成 28 年度入学者選抜の実施教科・科目等及び配点……………	27
◎各欄の注意事項……………	36
◎旧教育課程履修者に対する「工業数理基礎」 の経過措置について……………	40
(2) 推薦入試……………	41
推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）……………	41
（経済学部，医学部，工学部，福祉健康科学部（設置予定））	
推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）……………	45
（教育学部（改組予定））	
(3) アドミッション・オフィス入試（AO入試）……………	47
(4) 帰国子女入試……………	49
(5) 社会人入試……………	50
(6) 私費外国人留学生入試……………	52
4. 障がいのある者等の事前相談……………	54
5. 東日本大震災により被災した者，または東日本大震災や 福島原子力発電所事故により転学等をした者の事前相談……………	54
6. 入試過去問題の使用について……………	54
7. 平成 27 年度入学者選抜に関する実施状況……………	55
8. 募集要項の請求方法……………	57

福祉健康科学部（仮称）の設置及び教育福祉科学部の改組について

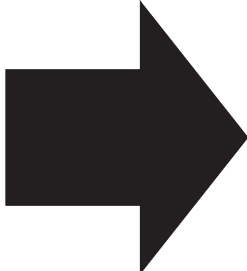
大分大学では平成 28 年 4 月に、下記のとおり福祉健康科学部の設置及び教育福祉科学部の改組を予定しており、現在、設置等申請中です。これらの設置・改組計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果通知によって確定するものであり、内容の変更があり得ます。

大分大学では、文部科学省に福祉健康科学部の設置を申請しております。また、教育福祉科学部の改組を予定しています。これらの設置・改組に伴い、関連する既存課程・コースにおいて、下図のとおり学生募集の停止を予定しています。

これらの計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するものであり、内容の変更があり得ます。この入学者選抜要項に掲載している募集人員、入学者選抜方法などはすべて予定です。

詳細については、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果通知（平成 27 年 8 月末予定）後、公表する予定です。

1. 設置・改組計画

設置・改組前（平成 27 年度）			設置・改組後（平成 28 年度）	
			福祉健康科学部<100 名>	
			福祉健康科学科	100 名
			高度リハビリテーションコース	30 名
			社会福祉実践コース	35 名
			心理学コース	35 名
教育福祉科学部<245 名>			教育学部<135 名>	
学校教育課程	100 名		学校教育教員養成課程	135 名
発達教育コース	25 名		小学校教育コース	125 名
教科教育コース	65 名		特別支援教育コース	10 名
特別支援教育コース	10 名		募集停止	
情報社会文化課程	50 名			
社会文化コース	15 名			
情報教育コース	20 名			
総合表現コース	15 名			
人間福祉科学課程	95 名			
社会福祉コース	35 名			
心理健康福祉コース	30 名			
生活環境福祉コース	30 名			

2. 「福祉健康科学部」設置計画について

(1) 設置の趣旨

わが国が世界でも例を見ない速度で少子高齢化が進む中、本学は、これまでに蓄積してきた教育研究成果を結集してより成熟した福祉社会の実現に貢献するという理念を掲げ、大学の新しい方向性についての検討を重ねてきました。その結果、本学が他の国立大学にはない「福祉」「心理」のリソースを豊富に有し、しかも医学・医療の教育研究体制が充実していることから、「医療と福祉、心理の融合」という先進的なコンセプトをもった新しい学部〈福祉健康科学部〉創設の構想に至りました。

福祉健康科学部は、医療と福祉、心理を有機的に融合させた「福祉健康科学」（注1）という独創的な学問体系の下で、それを構成するリハビリテーション、心理学、および社会福祉学（ソーシャルワーク）の学問領域に立ち、それぞれの高度な専門的知識と技能を体系的に修得することを通じて、理学療法士、福祉専門職、および心理専門職の養成を目指します。

さらに、本学部では、個別の専門職の養成にとどまらず、「生活を包括的に支援する視点」を持ち、要支援者の多彩な課題に対応できる各分野の専門性を担保するとともに、地域包括ケアシステム（注2）を実践する「領域横断型」の専門職のリーダーとなり得る「生活支援の専門職者」の養成を行います。

以上、福祉健康科学部の創設は、「より成熟した福祉社会の実現」という上記の理念の具現化に大いに資すると確信するものです。

（注1）「福祉健康科学」とは、個人の心身に働きかける「心理学」、「リハビリテーション」、および個人をとりまく環境との関係性に注目する「社会福祉学」「ソーシャルワーク」の学問体系に立脚し、心身の状態と生活環境の相互作用という観点から個人の健康に関する事実や法則性を明らかにするとともに、専門職者による包括的な生活支援をより効果的にする知見と技能を提供する総合的な実践科学です。

（注2）「地域包括ケアシステム」とは、高齢者や障がい者をはじめとする要支援者の在宅率を高めつつ充実した社会保障を提供する中核的施策です。

(2) 学部の概要

同学部は、1学科（福祉健康科学科）3コース（高度リハビリテーションコース、社会福祉実践コース、心理学コース）で構成します。

〈基本理念〉

福祉と医療、心理を融合した新しい教育研究を通じ、リハビリテーション学、社会福祉学、心理学の学問領域に立ち、それぞれの学問領域における高度な専門的知識と技能のみならず他領域における知識等を体系的に習得することを通じて、「地域包括ケア」のリーダーとして活躍できる人材養成を行うことによって、より成熟した福祉社会の実現に寄与することです。

〈教育の目標〉

資格取得をめざすのみではなく、「高度な専門性」と「社会人としての教養と態度」を備えた医療・福祉・心理の各分野における「実践専門職」として社会に貢献するとともに、包括的な支援を高度にマネジメントできるリーダーとして「地域包括ケア」の実現に寄与する人材を養成します。

〈教育課程の特色〉

●高い専門性を担保した専門職養成のためのカリキュラム設定

理学療法士，福祉専門職（社会福祉士など），心理専門職（認定心理士など）の資格取得に必要な科目を履修することによって，高い専門性を担保します。

- ・コース専門科目（理学療法学概論，地域福祉論Ⅱ，臨床心理学実践論など）

●マネジメント能力とリーダーシップ能力を涵養するためのカリキュラム編成

資格取得のためだけのカリキュラムではなく，「地域包括ケアシステム」を具象化するために求められる，医療・福祉・心理の領域を横断した，「高いマネジメント能力とチーム・アプローチにおけるリーダーシップを取れる能力を涵養するカリキュラムを編成しています。

- ・共通基礎科目（福祉健康科学概論など）
- ・共通展開科目（人間発達学，地域福祉論Ⅰ，社会心理学など）

●実践を重視した参加型学習の充実

アーリー・エクスポージャー（早期体験実習）の実施により，各専門職となる覚悟と関心を早期に高め，学習への動機付けや能動的・問題解決的な自己学習態度を身に付けます。

また，チュートリアル科目の導入により，座学で学習した知識が現場でどのように役立つかを学ぶとともに，高齢者や障がい者をはじめとする要支援者の生活を包括的に支援するための課題解決に必要な専門職間の連携やマネジメント能力を涵養します。

- ・共通基礎科目（アーリー・エクスポージャー）

入学間もない時期に，障がい者施設等に出向き，理学療法士，福祉専門職，心理専門職が現場でどのように働いているかということを見学する。

- ・チュートリアル科目（チュートリアルⅠ～Ⅳ）

各コースの学生や医学生，看護学生で構成する少人数グループにより，チューター（教員）のもとで，個別のケース検討（事例検討型学習）を行う。

3. 「教育福祉科学部」改組計画について

(1) 改組の目的

教育福祉科学部では、平成 25 年 12 月に公表したミッションの再定義において、大分県教育委員会等との連携により、地域密接型の教員養成学部として、地域の教育に貢献する質の高い教員を養成する役割を担うこととなりました。

そのため、本学部では、実践型教員養成への質的転換を図り、特に学力・体力向上、不登校・いじめ対応、目標達成に向けた組織的な学校組織の構築などの地域の教育課題に的確に対応できる能力を備えた教員を養成することを目的に、平成 28 年 4 月に向けて次のような改組を計画しています。

(2) 改組の概要

実践型教員養成機能を強化するため、名称を教育学部と改め、学校教育教員養成課程を設置します。同課程は、小学校教育コース（卒業要件：小学校教諭 1 種免許状）と特別支援教育コース（卒業要件：特別支援学校教諭 1 種免許状・小学校教諭 2 種免許状）の 2 コースで構成します。

<教育の理念>

小学校教育における各教科の指導内容と指導方法についての確かな専門的知識の上に、新しい時代を担うための子どもたちの学ぶ力を育む実践的指導力を持ち、教育現場で生起する諸課題に適切に対応できる小学校教員を重点的に養成します。

<教育の目標>

次のような学校教員を養成します。

1. 社会からの尊敬・信頼を受ける教員
2. 確かな実践的指導力を有する教員
3. 新たな学びを展開できる実践的指導力を有する教員
4. 学校の教育力を支えることができる教員

<教育課程の特色>

【小学校教育コース】

●小学校教員養成に重点化したカリキュラム編成

小学校教員としての実践的指導力を育成するために、初等教育教科に関する科目は全教科を必修化し、さらに英語の教科化へ対応します。また、小学校の教科内容理解力、教科指導力の向上のために、「小学校教材研究」や「小学校授業論」などの科目を新設します。

さらに、小学校に隣接する校種の教育実践内容の理解を通して小学校教員としての指導力を高めるために、幼稚園免許または中学校教員免許を取得できます。

●地域や現代の教育課題に対応する新科目の設定

学力・体力向上、不登校・いじめ対応、目標達成に向けた組織的な学校組織の構築などの地域の教育課題に的確に対応できる能力を備えた教員を養成するために、以下のような科目を設定します。

- ・「地域の教育課題」（仮）
 <学力向上，体力向上，不登校・いじめ対応，芯の通った学校組織の構築等>
- ・「教育コミュニケーション力の開発」（仮）
 <保護者とのコミュニケーション，クレーム対応等のロールプレイ>
- ・「教育実践の課題Ⅰ」（仮）
 <言語活動の充実，総合的な学習の時間，学校図書館活用に関する内容等>
- ・「教育実践の課題Ⅱ」（仮）
 <特別な教育支援を必要とする子どもへの対応や授業づくりに関する内容等>

●教職への手厚いサポート — メンタリング・コーチングシステム

教職への意識付けや憧れが，早い段階から高まり卒業時には質の高い教員となるように，複数の指導教員が1年次から卒業まで，一人ひとりの学生の特性を踏まえた修学指導や生活指導，教採指導を行います。

【特別支援教育コース】

小学校教員としての実践的指導力を培う教育課程をベースに，知的障がいや肢体不自由などのある子どもたちと直接触れ合う実践体験から得られる生きた知識を重視しつつ，障がい児の教育・心理・生理に関する専門的な知識と指導法を学び，子どもたちの特別な教育的ニーズに応えられる特別支援学校の教員，及び小学校や中学校での特別支援教育の中心的役割を担える教員を養成します。

なお，取得できる特別支援学校教諭1種免許状の特別支援教育領域は，知的障害者，肢体不自由者，病弱者です。

医学部看護学科入学者選抜方法の変更について

医学部看護学科では、平成 28 年度入学者選抜試験から次のとおり入学者選抜方法を変更します。

1. 募集人員の変更

年度	平成 27 年度		平成 28 年度	
	入試区分	募集人員	入試区分	募集人員
募集人員等	一般入試（前期日程）	35 名	一般入試（前期日程）	35 名
	一般入試（後期日程）	15 名 ※	一般入試（後期日程）	10 名 ※
	推薦入試	10 名	推薦入試	15 名
	合計	60 名	合計	60 名

※募集人員には、社会人入試(若干名)の募集人員を含みます。

2. 推薦入試における推薦人員の変更

年度	平成 27 年度	平成 28 年度
推薦人員	・各高等学校等から 2名 以内	・各高等学校等から 3名 以内

大分大学アドミッション・ポリシー

基本理念

人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することです。

教育の目標

1. 学生の立場にたった教育体制のもとで、広い視野と深い教養を備え、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成します。
2. ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し、創造性と応用力に富んだ人材を育成します。
3. 高い学習意欲をもち、たゆまぬ探究心と総合的な判断力を身につけ、広く世界で活躍できる人材を育成します。

求める学生像

意欲をもち、将来への可能性を秘めている人を求めています。

1. 幅広く、より深く学ぶための基礎的能力をもっている人
2. 旺盛な知的好奇心をもち、新しい課題に積極的に取り組む人
3. 自分のもつ資質を磨き、能力を伸ばしたい人
4. 夢や目的をもち、周囲と協力しつつその実現に向けて努力する人
5. 志をもって国際社会及び地域社会への貢献をめざす人

教育学部（改組予定）アドミッション・ポリシー

基本理念・目標

地域の学校教育の発展のため、教育に関する専門的な知識・技能を学校現場の中で創造的・総合的に活用し、新たな学びや地域の教育課題に適切に対応できる実践的指導力を備えた小学校教員、特別支援学校教員の養成を行うことです。

求める学生像

- ・ 小学校教員として、あるいは特別支援学校教員として子どもたちの教育や支援に取り組む意欲と情熱がある人
- ・ 学校教育に深い関心があり、大分県を中心とした地域社会への貢献ができる人
- ・ 物事を多面的に分析し、自ら課題を見つけ、他者と協働して課題解決ができる人
- ・ 子どもや他者とのコミュニケーションが積極的にでき、相互理解を深めようとする人

入学者選抜の基本方針

教育学部では、多様な観点から受験者の学力や資質をみるため、一般入試（前期日程・後期日程）及び推薦入試を実施し、「求める学生像」にそって学生を選考します。

一般入試（前期日程）

総合的な学力をみるため、大学入試センター試験と個別学力検査を課しています。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では教科の試験と面接を課しています。

一般入試（後期日程）

総合的な学力をみるため、大学入試センター試験と個別学力検査を課しています。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では面接を課しています。

推薦入試

総合的な学力をみるため、大学入試センター試験と面接を課しています。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、面接では提出書類と合わせて総合的に判断して選考します。

各選抜試験で重視する力や観点

入試区分	入試科目	確かな学力			求める学生像	
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力	教育や支援に取り組む意欲と情熱	学校教育への深い関心
一般入試	前期日程	大学入試センター試験	○	○		
		教科の試験	○	○		
		面接		○	○	○
	後期日程	調査書	○		○	○
		大学入試センター試験	○	○		
		面接		○	○	○
推薦入試	調査書	○		○	○	
	志望理由書		○		○	
	推薦書			○	○	
	大学入試センター試験	○	○			
	面接		○	○	○	

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、習得していることを前提として行われます。このような点から、大学入試センター試験で課している教科・科目について、及び一般入試（前期日程）において各コースで課している教科・科目についてはその基礎を十分に理解し、習得するとともに、応用的な力を養うことが必要です。推薦入試や一般入試（後期日程）においては、これら教科・科目の試験は課していませんが、大学入学までにこれらの教科・科目を履修し、習得していることが望まれます。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。

なお、習得しておくべき科目は国語総合の他、国語表現、現代文、古典に関する科目です。

地理歴史、公民：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。

数学：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を習得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。なお、習得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。

理科：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。

なお、習得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

経済学部アドミッション・ポリシー

教育理念・目標

本学部は、経済学、経営学を中心にしながら社会科学の諸分野について、基礎から応用・実践に至るまで幅広く学習することを通じて、経済社会の動向を的確に把握し、社会の中核を支える人材を養成することをめざしています。

こうした人たちが今日の高度化・複雑化する社会に柔軟に対応しながら、各方面で真価を発揮するためには、基礎的能力が不可欠です。こうした能力を身につけることは、社会や経済の変化に対する適応力を高めるとともに、創造性を発揮するうえでの基盤になると考えています。また、実社会で活躍するうえで求められる実践力を身につけるためにも基礎的能力が重要です。そこで、学生の基礎的能力を高めることを本学部の教育目的とします。

この目的を達成するために基礎学力を伸ばすことのできる多様な授業、カリキュラムを編成するとともに、少人数教育に基づいたきめ細かな指導によって、論理力、表現力、開かれたコミュニケーション能力や共生する力を育成します。同時に、国際化、情報化などに対応できる能力も育成します。

求める学生像

本学部は、経済社会の諸問題に関心をもつ人に対して、その基礎的能力を高めることを教育の目的としています。

したがって、本学部に入学者は、経済社会への関心や基礎学力を有すると同時に、自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲をもつ学生であってほしいと考えています。とくに、いきいきとした好奇心をもち続けられる人、しっかりした自分をもち自己表現ができる人、そして、バイタリティーあふれる人を本学部は求めています。卒業後の進路として、次のような目標をもっている人が入学することを歓迎します。

- ・金融界で活躍することをめざす人（たとえば銀行、保険会社、証券会社の仕事などをめざす人）
- ・産業界で活躍することをめざす人（たとえばメーカー、商社、サービス業の仕事やベンチャービジネスの起業などをめざす人）
- ・公務に携わることをめざす人（たとえば公務員、国税専門官、裁判所職員や警察などの仕事をめざす人）
- ・会計や税務、法務に携わることをめざす人（たとえば公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、司法書士などをめざす人）
- ・教育や研究に携わることをめざす人（たとえば高校教員や研究調査の仕事、また大学院進学などをめざす人）
- ・国際社会で活躍することをめざす人（たとえば国際公務員や海外ボランティア、また外国企業で働くことをめざす人）
- ・地域社会で活躍することをめざす人（たとえば県庁・市町村役場やマスコミ、病院、福祉施設などで働くことをめざす人）

《各学科の特色》

本学部は、次の三つの学科によって構成され、それぞれ特色ある授業を提供しています。

とりわけ地域経済や地域社会に関する豊富な授業は他大学にはみられない充実したものです。学生は入学時に学科を決めず、基礎を幅広く学んだのち各自の希望に応じて所属学科を決めます

が、学生の多様な関心やニーズに対応し、多面的な学習ができるように所属学科にかかわらず豊富なメニューのなかから自由に選択できるようにしています。

〈経済学科〉

経済学科では、家計、企業、政府などの経済主体の行動から構成される経済現象の全体像について学びます。分析にあたっては、さまざまな経済現象の関連性に着目して、それらの因果関係を明らかにすることを重視します。

〈経営システム学科〉

経営システム学科では、現代企業のかかえる諸問題を正確に分析し、解明するための方法を学びます。基本的には経営学・会計学・商学を中心にして、理論と実践の統合をはかっています。

〈地域システム学科〉

地域システム学科では、地域レベルで生じているさまざまな地域問題を社会学・地理学・社会福祉学・法学・コミュニケーション学などに立脚しながら総合的・学際的にとらえ、その具体的解決策を模索することを目的としています。

入学者選抜の基本方針

経済学部では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、推薦入試（普通推薦、商業推薦）、アドミッション・オフィス入試（AO入試）、社会人入試などを実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることをめざしています。

・一般入試（前期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では数学と英語から1教科を選択します。

・一般入試（後期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入試センター試験は4～5教科5科目とし、個別学力検査では小論文を課します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。

・推薦入試（普通推薦、商業推薦）

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。面接はグループによるディスカッション方式で行い、積極性や理解力、自己表現能力をみます。

・アドミッション・オフィス入試（AO入試）

英語または簿記の能力が高く、そのうえで経済学・経営学等を学び、能力を高めようとする意欲を持つ学生を選抜するため、大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。選抜方法は2段階選抜で、第1次選考は自己推薦書及び調査書による書類選考とします。第2次選考は小論文及び個人面接とします。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。個人面接では、提出書類も参考にして、取得資格に関する能力、積極性、自己表現能力をみます。

- ・帰国子女入試

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

- ・社会人入試

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

- ・私費外国人留学生入試

日本留学試験ならびに本学で実施する学力検査（数学または英語から1教科選択）、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

- ・第3年次編入学

英語、小論文、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

経済学部の教育は、高等学校等において学習する教科・科目を十分に理解していることを前提として行われます。学生の基礎的能力を高めることが本学部の目標ですので、大学入学までに以下に掲げる能力等を身につけるようにしてください。

国語：資料や文章の読解力や大意把握力、自分の考えを説明するための論理的思考力と表現力が必要です。

地理歴史，公民：基礎的な知識と政治，経済，社会の動きに対する知的好奇心と探究心が必要です。

数学：基本的概念や原理・法則を理解することに加え，論理的な思考力と応用力（商業推薦の受験者にあっても，簿記に関する同様の思考力と応用力）が必要です。

理科：基礎的な知識と自然や科学に対する知的好奇心と探究心が必要です。

外国語（英語）：資料や文章の読解力と意思疎通のためのコミュニケーション能力，ならびに多様な言語文化に対する関心が必要です。

医学部アドミッション・ポリシー

基本理念

医と看護に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学及び看護学の知識並びに技術、そしてこれらを支える高い倫理観と豊かな教養・人間性を備えた医師或いは看護師・保健師、更には医学、看護学研究者を養成し、これら学問の進歩、国民の健康の維持増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育の目標

〈医学科〉

患者の立場を理解した全人的医療を行い、豊かな教養と人間性、高度の学識、問題解決能力、生涯学習能力及び国際的視野を備えた医師や研究者を養成します。

〈看護学科〉

人々が心身ともに健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の習得を促し、看護学の発展と地域住民の保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができるよう、豊かな人間性を備えた人材を養成します。

求める学生像

〈医学科〉

- 1 医師として人の健康と福祉及び科学の進歩に貢献したいという確固たる決意を持っている人
- 2 患者の痛みを分かち合い、患者に対する思いやりに満ちた慈愛の心を正しく体得しようとする志を持っている人
- 3 日進月歩の医学・医療に対応する知識と技術を習得するため、たゆまぬ努力と地道な研鑽を重ねることができる持続力と忍耐力を持ち合わせている人
- 4 他者の意見を良く聞き、協調して物ごとを進めることができる社会性とコミュニケーション能力を備えている人

〈看護学科〉

- 1 看護を通して社会に貢献しようとする意志と、他者の喜び、苦しみを分かち合える温かい心を持っている人
- 2 日進月歩の医療及び激動する社会の変化に対応しうる知識と技術の習得のため、たゆまぬ努力と自己研鑽（生涯学習）を重ねる人
- 3 国の内外を問わず、社会に起こっている問題に関心を持ち、それに対して自分の考えが述べられるような教養を備えている人
- 4 何ごとにも積極性を持ち、多くの人と交流ができる社会性を備えている人

入学者選抜の基本方針

〈医学科〉

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、医学科では、一般入試とアドミッション・オフィス入試を実施し、それぞれの選抜の趣旨に従って、多様な観点から受験者の学力や資質を評価しています。また、医学以外の学問を修めた大学卒業者を対象に2年次後学期への学士編入学を実施しています。

- ・一般入試（前期日程）

一般入試では、高等学校等での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験は5教科7科目を課しています。個別学力検査では、前期日程において、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から2科目選択）、数学、英語の3教科の学力を測るとともに、面接によりコミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等、受験者の素養を評価します。その際、高等学校等の調査書を参考資料とします。

- ・アドミッション・オフィス入試（略称「AO入試」）

AO入試とは、従来の高等学校長による推薦ではなく自己推薦による入試であり、本学部アドミッション・ポリシーに掲げた求める学生像について、学力のみで選抜するものとは異なり、丁寧な面接により適性等を評価し選抜するものです。一般入試と同じく大学入試センター試験は、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、5教科7科目を課しています。面接では、個人面接と集団面接を行い、医学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・リーダーシップ・協調性・独創性等を評価します。また、自己推薦書、調査書及び特別活動に関する調査書から、志願者がどのような高校生活を送ってきたかを、課外活動やボランティア活動、資格等を中心に評価します。

- ・学士編入学

学士編入学では、多様な専門能力、明確な問題意識や高い問題解決能力を有する人材並びに地域医療の場で活躍できる人材を受け入れるため、次のような3段階による選抜方法を実施しています。第1次選抜では小論文を含む書類審査を、第2次選抜では生命科学に関する総合問題と英語の学力審査を、第3次選抜では個人面接と課題発表形式を取り入れた集団面接を行っています。

〈看護学科〉

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、看護学科では、一般入試と推薦入試を実施し、それぞれの選抜の趣旨に従って、多様な観点から受験者の学力や資質を評価しています。また、社会人を対象とした入試や、看護系短期大学・専修学校の卒業者等を対象とした3年次編入学を実施しています。

- ・一般入試（前期日程・後期日程）

一般入試では、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験については5教科5科目を課しています。また、個別学力検査については、前期日程では小論文を課すことにより、論理的思考力・表現力・読解力・看護学を学ぶための適性等を評価します。後期日程では面接によりコミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等を評価します。

- ・推薦入試

推薦入試では、大学入試センター試験を免除し、小論文と面接を課しています。小論文では、理解力・統合力・思考力・表現力・独創性・論理性等を評価します。面接では、個人面接と集団面接を行い、看護学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・自己理解力・リーダーシップ・協調性等を評価します。その際、高等学校長等の推薦書及び調査書を参考資料とします。

- ・社会人入試

社会人入試では、社会人としての経験を看護の分野に活かしてゆくことのできる有能な人材を受け入れるため、大学入試センター試験を免除し、小論文と面接を課しています。小論文では、理解力・統合力・思考力・表現力・独創性・論理性等を評価します。面接では、個人面接と集団面接を行い、看護学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・自己理解力・リーダーシップ・協調性等を評価します。

・3年次編入学

短期大学の看護系学科及び看護系専修学校の卒業生等に、看護に対する専門能力及び指導能力をより高める機会を提供することを目的として、3年次への編入学を実施し、英語と総合問題と面接を課しています。総合問題では、専門基礎科目並びに専門科目に関する基礎知識・問題解決能力・統合能力を測り、面接では、コミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等を評価します。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

医学・医療を学ぶには、十分な基礎学力に加えて幅広い教養と他者への共感性、倫理性、社会的常識を備えていることが不可欠です。医学部の教育は、高等学校教育全科にわたって以下に掲げる基礎的な知識、技能、思考力、体力等をバランスよく身につけていることを前提として行なわれます。合格時に不足している項目については、入学までに確実に習得することが必要です。

<医学科>

- 国語**：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。
- 地理歴史、公民**：各科目の基礎的知識、社会的常識と思考力を身につけていることが必要です。
- 数学**：理系数学（数学Ⅲ・数学Bの範囲まで）の知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。
- 理科**：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。
- 外国語（英語）**：国際的視野に立つ思考力、外国語文献を読解し、外国語で発表する基礎的語学力を身につけていることが必要です。
- 保健体育**：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要です。

<看護学科>

- 国語**：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。
- 地理歴史、公民**：社会科学的な基礎知識と思考力を身につけていることが必要です。
- 数学**：数学Ⅰまたは数学Ⅱの基礎的知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。
- 理科**：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。
- 外国語（英語）**：国際的視野に立つ思考力、会話力を身につけていることが必要です。
- 保健体育**：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要です。

工学部アドミッション・ポリシー

基本理念

質の高い特色ある教育と研究を通じて、世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成することです。

教育の目標

学生の立場にたった教育体制のもとで、自らの課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たすゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を備えるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成することです。

求める学生像

環境や社会に対する影響も予見しながら自然との共生や、真に人類に役立つ技術とは何かを自ら考え、先進的科学技術によって人類福祉に貢献する意欲をもち将来への可能性を秘めている人を求めています。

以上の観点と本学の求める学生像から、具体的には、次のような人を求めています。

- 1 工学の基礎をなす科目に対して基礎学力を備え、広範囲な事象に対して強い知的好奇心をもっている人
- 2 新しい課題を自ら見いだす着想力をもち、この課題に立ち向かう強い意志とねばり強さをもっている人
- 3 豊かな感性と表現力をもち、自立的に考えながらも他人と協力・共同して物事を実行していく姿勢をもっている人
- 4 技術者として、国際舞台でリーダーシップと行動力を発揮することに強い意志をもっている人

特に、各学科では、次のような人を求めています。

〈機械・エネルギーシステム工学科〉

本学科は、機械に関する基礎技術と利用技術、メカトロニクス、ロボティクスなどの制御の分野、新エネルギー、エネルギーの有効利用に関する技術開発および利用技術に重点を置く、機械工学・電気工学の総合的な教育と研究を行います。

以上のような教育理念に基づき、本学科では次のような人を求めています。

- 1 数学及び物理に関する基礎学力を備え、国語及び英語に関する基礎的な語学力も有し、自分の意見を論理的に説明できる人
- 2 自ら問題を見だし、計画的にその解決をめざすことができるリーダーシップと行動力をもっている人
- 3 ものづくりに興味があり、そのために必要な深い専門知識を身につけて創造的技術者や研究者となることをめざし、それによって人のために役立ちたいという強い意志をもっている人
- 4 地球規模での課題に問題意識をもち、それらの課題と技術との融合について関心をもっている人

〈電気電子工学科〉

本学科は、電気、電子、情報、通信等に代表される電気電子工学の広範な分野の中で、社会や環境に対する影響も予見しながら、人類の幸福・福祉に役立つ技術とは何かを積極的に考え、技術の発展や学問の進展に貢献することのできる人材の育成を目的にしています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

- 1 高等学校での基礎的な学習内容をよく理解して、電気電子工学並びに幅広い教養を学ぶための基礎学力をもっている人
- 2 現代社会の抱える課題や科学技術に関心があり、自ら学び理解しようという知的な好奇心をもっている人
- 3 何事にも積極的にチャレンジする行動力をもっている人

〈知能情報システム工学科〉

本学科は、人の知を拡大する新世代知的IT（情報技術）革命の担い手となる国際的技術者・研究者を育てるという教育理念に基づき、次のような人を求めています。

- 1 情報科学の基礎から情報・知能工学の応用までの幅広い学習と研究に取り組むことができる基礎的な能力と旺盛な知的な好奇心をもっている人
- 2 高度情報化社会において、新たな課題を自ら見つけだし、解決することを通じて、地域社会や世界に貢献したいという高い志をもっている人
- 3 豊かな感性と表現力・コミュニケーション能力をもち、自ら考えて行動し、夢の実現に向かってチャレンジすることができる人

〈応用化学科〉

私達が将来にわたって地球上で共存し幸福に暮らしていくためには、エネルギー・情報・環境に関して生じてくる複雑な問題を科学的に解決していかなければなりません。化学は物質の存在形態と変化の本質を明らかにしようとする学問ですから、種々の課題の解決における化学の知識と技術の重要性は、新しく形を変えつつますます大きくなってきています。

本学科は、私達の生産活動、毎日の生活や自然現象を化学的な立場から自ら進んで考え、化学技術によって人類福祉に貢献することのできる技術者、研究者の養成を目標にしています。

応用化学科の教職員は、一生懸命自分を高めようと頑張る学生諸君を力いっぱい支援します。

以上の観点から、本学科では次のような高校生や社会人を求めています。

- 1 自然界や人間社会、産業社会のさまざまな現象について常に科学的・化学的観点から興味をもつことができる人
- 2 工学を学ぶために必要な、数学、化学とともに物理あるいは生物について基礎学力をもっている人
- 3 英語、国語の基礎的語学能力をもとに、与えられた課題について論理的かつ自由な発想で考え、意見を発表することができる人
- 4 学習の目標を達成する強い意志をもっている人

〈福祉環境工学科〉

本学科は、すべての人が幸福を感じられる高度福祉社会を、工学的側面から実現するための研究開発と人材養成を行うことを理念にしており、このような目標に向かって努力できる人を求めています。

・建築コース

建築は生活の器として人間に密接な存在であり、都市や地域の環境を構成する基本的な要素です。そのため、建築には自然と共生しながら、人間生活の安全性・快適性を追求し、その質を向上させながら、長年にわたって持続させていくことが要求されます。したがって、自然科学や工学の分野だけでなく、人文、社会科学から芸術にわたる幅広い知識が必要となります。

本コースは、高度化・多様化・国際化している社会のニーズに対応できる豊かな発想力、豊かな人間性及び幅広い見識を兼ね備えた建築家、建築技術者、研究者の育成を目標としています。そのため本コースは次のような意欲と情熱をもつ人を求めています。

- 1 工学, 人文, 社会科学並びに芸術の分野に関心があり, 幅広い専門知識を身につけ社会に貢献できるエキスパートをめざしている人
 - 2 あらゆる立場の人とコミュニケーションできる能力と見識を有する技術者になりたいという旺盛な意欲をもっている人
 - 3 自ら課題を見つけだし, それを解決できる行動力と柔軟な思考力を獲得するため努力をする人
- ・メカトロニクスコース

機械部品と電気部品とその制御装置が複合されたメカトロニクス装置 (= Mechanics + Electronics, ロボットはその一例) は, 多くの人の負担を軽減すると共に, 今まで人にしかできなかった作業も可能にしつつあります。

本コースは, このメカトロニクス装置に関する技術を通じて社会のニーズに貢献するメカトロニクス技術者・研究者の育成を目標とし, 次のような人材を求めています。

 - 1 自分の力を人々の生活の質の向上に役立てようとする気持ち『福祉マインド』を持ち, これを育もうとする人
 - 2 理工学, 人文並びに社会科学の分野に関心があり, メカトロニクスに関する幅広い専門知識を身につけ社会に貢献できるエキスパートをめざしている人
 - 3 国際的なコミュニケーション能力を有する技術者になりたいという強い意志をもっている人
 - 4 自ら課題を見つけだし, それを解決できる行動力と柔軟な思考力をもっている人

入学者選抜の基本方針

本学部では, 多様な観点から受験者の学力や資質をみるため, 一般入試 (前期日程・後期日程) のほか推薦入試, 帰国子女入試, 私費外国人留学生入試などを実施し, アドミッション・ポリシーにそって学生を選考します。

・一般入試 (前期日程)

大学入試センター試験 (5教科7科目) および個別学力検査 (数学, 理科) により, 専門分野の学習に必要な基礎学力を見ます。

・一般入試 (後期日程)

大学入試センター試験 (5教科7科目) により, 専門分野の学習に必要な基礎学力を見るとともに, 個別学力検査 (面接) により, 専門分野への関心や意欲と自己表現力を見ます。

・推薦入試

大学入試センター試験および個別学力検査を免除し, 調査書, 推薦書, 基礎能力試験および面接により総合的に評価し, 選抜します。基礎能力試験では, いくつかの設問を通じて, 基礎能力を含む論理的思考力, 課題解決能力を見ることで, 受験者の工学分野への適性をはかります。また面接では, 専門分野への関心・意欲・理解を見るとともに, 積極性, 自己表現力を見ます。また基礎学力に関する設問も含み, 理解力・論理的思考力・表現力についても評価します。

・帰国子女入試

大学入試センター試験を免除し, 本学で実施する学力検査 (数学, 理科, 英語), 面接, 提出書類により総合的に評価し, 選抜します。面接では, 専門分野への関心・意欲・理解を見るとともに, 積極性, 自己表現力を見ます。また基礎学力に関する設問も含み, 理解力・論理的思考力・表現力についても評価します。

・私費外国人留学生入試

日本留学試験ならびに本学で実施する学力検査 (数学, 理科, 英語), 面接により総合的に評価

し、選抜します。面接では、日本語能力、専門分野への関心・意欲・理解を見るとともに、積極性、自己表現力を見ます。また基礎学力に関する試問も含み、理解力・論理的思考力・表現力についても評価します。

・第3年次編入学

面接、提出書類により総合的に評価し、選抜します。面接では、簡単な筆記試験及び口頭試問により、基礎学力や専門分野の学力を見るとともに、専門分野への意欲、積極性、論理的思考力、自己表現力についても評価します。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

工学部の教育においては、高等学校において学習する以下のような教科・科目の内容を理解していることが望まれます。高等学校の教育課程や入試区分等の違いもあるため、理解のレベルは個人によりそれぞれ異なると思います。不足していると思われる項目については、入学までに身につけるよう期待します。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。

地理歴史、公民：基礎的な知識を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する客観的な見方・考え方を身につけ、政治・経済・社会の動きに対して常に興味や関心を持つことが必要です。

数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bについて、基礎的な計算技能を習得するとともに、基本的な定理を理解して活用できることが必要です。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理することに習熟していることが必要です。

理科：物理基礎・物理および化学基礎・化学について、基礎的な概念を理解するとともに、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方・考え方を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれ、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが必要です。

福祉健康科学部（設置予定）アドミッション・ポリシー

基本理念

福祉と医療、心理を融合した新しい教育研究を通じ、リハビリテーション学、社会福祉学、心理学の学問領域に立ち、それぞれの学問領域における高度な専門的知識と技能のみならず他領域における知識等を体系的に習得することを通じて、「地域包括ケア」のリーダーとして活躍できる人材養成を行うことによって、より成熟した福祉社会の実現に寄与することです。

教育の目標

資格取得をめざすのみではなく、「高度な専門性」と「社会人としての教養と態度」を備えた医療・福祉・心理の各分野における「実践専門職」として社会に貢献するとともに、包括的な支援を高度にマネジメントできるリーダーとして「地域包括ケア」の実現に寄与する人材を養成します。

求める学生像

本学部において、以下の人材を求めます。

- ・大学において、教養と専門的知識を習得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
- ・福祉社会の実現に関心を持ち、自ら考え、実践・努力する人
- ・様々な活動に主体的に取り組めるとともに、思いやりの心を持って行動できる人
- ・地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持つ人
- ・知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人
〈高度リハビリテーションコース〉
- ・リハビリテーションの専門知識や技能を生かして社会に貢献したいという意思を持つ人
〈社会福祉実践コース〉
- ・福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意思を持つ人
〈心理学コース〉
- ・心理学の知識や技能を生かして社会で活躍し、貢献したいという意思を持つ人

入学者選抜の基本方針

本学部では、求める学生像のみならず、高等学校及び大学において育成すべき「生きる力」「確かな学力」の本質を踏まえつつ、アドミッション・ポリシーに基づき、受験者の多様な能力を多面的に評価する個別選抜を確立するために、一般入試（前期日程・後期日程）及び推薦入試（高度リハビリテーションコース及び心理学コースは実施しない）を実施し、高等学校等で培われた学びの意欲や活動を多面的・総合的に評価し、選考します。

- ・一般入試（前期日程、後期日程）

総合的な学力をみるため、大学入試センター試験と個別学力検査を課します。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では、各コースの専門に応じたテーマを設定した小論文及び面接を全員に課します。小論文では論理的思考力、表現力（文章構成力を含む）を、面接ではコミュニケーション能力、協調性、積極性などをみます。

- ・推薦入試

「社会福祉実践コース」のみ推薦入試を行います。特に、大学入試センター試験を課さない推薦入試においては、アドミッション・ポリシーに基づき多様な能力を多面的に評価する選抜として、小論文では総合問題等を導入し、論理的思考力、表現力を測り、面接ではコミュニケーション力やリーダーシップを測ることにより丁寧な選抜を行います。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、習得していることを前提として行われます。個別学力検査及び推薦入試においては、これら教科・科目の試験は課していませんが、大学入学までにこれらの教科・科目を履修し、習得していることが望まれます。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。
なお、習得しておくべき科目は国語総合、国語表現、現代文、古典です。

地理歴史・公民：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。

数学：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を習得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。
なお、習得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。

理科：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。

なお、習得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

1. 募集人員

学部	課程・学科・コース		入学定員	募集人員				
				一般入試		推薦入試		AO入試
				前期日程	後期日程			
(改組予定) 教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	125	80	20	25		
		特別支援教育コース	10	3	2	5		
	計		135	83	22	30【注2】		
経済学部	経済学科		130	120	90【注3】①②③	普通推薦 50 商業推薦 25		英語資格 5 簿記資格 15
	経営システム学科		130					
	地域システム学科		45					
	計【注1】		305			75【注2】		20【注2】
医学部	医学科		100	65	-	-		35 (地域枠13を含む)
	看護学科		60	35	10【注3】②	15		
	計		160	100	10	15【注2】		35【注2】
工学部	機械・エネルギーシステム工学科		80	53【注3】①③	15	A推薦9 B推薦3	12	
	電気電子工学科		80	52【注3】①③	14	A推薦11 B推薦3	14	
	知能情報システム工学科		70	44【注3】①③	11	A推薦10 B推薦5	15	
	応用化学科		60	38【注3】①③	10	A推薦10 B推薦2	12	
	福祉環境工学科	建築コース	50	35【注3】①③	10	B推薦 5		5
		メカトロニクスコース	30	16【注3】①③	6	A推薦6 B推薦2	8	
	計		370	238	66	66【注2】		
(設置予定) 福祉健康科学部	福祉健康科学科	高度リハビリテーションコース	30	25	5	-		
		社会福祉実践コース	35	23	6	普通推薦 5 福祉推薦 1	6	
		心理学コース	35	30	5	-		
	計		100	78	16	6【注2】		
合計			1070	619	204	192		55

【注1】 経済学部は、入学後に所属学科を決定します。

【注2】 推薦入試、AO入試の入学者が募集人員に満たなかった場合は、一般入試（前期日程）で補充することがあります。

【注3】 募集人員には、①帰国子女入試(若干名)、②社会人入試(若干名)、③私費外国人留学生入試(若干名)の募集人員を含みます。

2. 入学者選抜実施日程

入試区分		学部	募集要項 公表時期	出願期間	試験日	合格者発表
一般入試	前期日程	教育学部（改組予定） 経済学部 医学部看護学科 工学部 福祉健康科学部（設置予定）	12月上旬	平成28年1月25日（月）～ 平成28年2月3日（水）	平成28年2月25日（木）	平成28年3月6日（日）
		医学部医学科			平成28年2月25日（木） 平成28年2月26日（金）	
	後期日程	教育学部（改組予定） 経済学部 医学部看護学科 工学部 福祉健康科学部（設置予定）			平成28年3月12日（土）	平成28年3月20日（日）
推薦入試		教育学部 （改組予定）	10月上旬	平成27年11月2日（月）～ 平成27年11月6日（金）	平成27年11月18日（水）	平成28年2月10日（水）
		経済学部 医学部看護学科 工学部 福祉健康科学部（設置予定）				平成27年12月1日（火）
A O 入試		経済学部	6月中旬	平成27年8月17日（月）～ 平成27年8月21日（金）	平成27年9月25日（金）	平成27年10月16日（金）
		医学部医学科	6月中旬	平成27年11月2日（月） ～平成27年11月6日（金）	平成28年2月7日（日）	平成28年2月10日（水）
帰国子女入試		経済学部 工学部	12月上旬	平成28年1月18日（月）～ 平成28年1月22日（金）	平成28年2月5日（金）	平成28年2月15日（月）
私費外国人 留学生入試	経済学部 工学部					
社会人入試		経済学部	6月下旬	平成27年7月21日（火） ～ 平成27年7月24日（金）	平成27年8月18日（火）	平成27年9月8日（火）
		医学部看護学科				

3. 入学者選抜方法等

(1) 一般入試

① 志願学部・学科等

国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。）入学志願者は、一般入試（個別学力検査）について、前期日程から1つ、後期日程から1つ、公立大学中期日程から1つの合計3つの国公立大学・学部に出願することができます。なお、本学のみに出願する場合、前期日程と後期日程において学部・学科等の組み合わせに制限はありません。

※公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）を参照

(1) 教育学部（改組予定）

志願できるコースは、前期日程及び後期日程とも1つのみです。

(2) 経済学部

前期日程及び後期日程とも各学科の募集人員を一括して募集し、所属学科は入学後に決定します。

(3) 医学部

志願できる学科は、前期日程及び後期日程とも1つのみです。（ただし、医学科は後期日程は実施しません。）

(4) 工学部

(ア) 志願できる学科は、前期日程及び後期日程とも第3志望まで認めます。ただし、福祉環境工学科については、建築コースとメカトロニクスコースでコース別に募集します。したがって、第1～第3志望を選択するときは、機械・エネルギーシステム工学科、電気電子工学科、知能情報システム工学科、応用化学科、福祉環境工学科（建築コース）、福祉環境工学科（メカトロニクスコース）の中から志望順に3つまでを選択することになります。また、第1志望のみ又は第2志望まででもかまいません。

(イ) 前期日程において、第1志望の学科に必要な個別学力検査受験科目（理科）を受験していない場合は、第1～第3志望とも判定の対象になりません。

(ウ) 前期日程において、**第2志望以下での個別学力検査受験科目(理科)**は、「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」のいずれでもかまいません。

(5) 福祉健康科学部（設置予定）

志願できるコースは、前期日程及び後期日程とも1つのみです。

② 出願資格

平成28年度大学入学者選抜「**大学入試センター試験**」で**本学が指定する教科・科目を受験した者**で、次のいずれかに該当する者です。

(1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成28年3月修了見込みの者

(3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者

なお、同条第7号により出願を希望する者は、事前に入学資格認定の審査を行いますので、学生支援部入試課へ申し出てください。

<参考>学校教育法施行規則第150条第7号

大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

申 出 先 〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地
大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

【注1】学校教育法第90条第2項による高校2年生からのいわゆる飛び入学については、実施しません。

【注2】出願資格のない者が受験しても合格とならないので注意してください。

③ 入学者選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験、個別学力検査等及び調査書に基づいて総合判定します。

(1) 調査書について

出身高等学校長等が作成したものとします。

(2) 過年度の大学入試センター試験成績の利用について

本学では平成28年度の入学試験において、大学入試センター試験の前年度以前の成績は利用しません。

(3) 第1段階選抜について

医学部

医学科及び看護学科において、入学志願者が著しく多い場合は、大学入試センター試験の成績(傾斜後の得点)により、次のとおり第1段階選抜を行います。

①前期日程

医学科は募集人員の約3倍、看護学科は募集人員の約6倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

②後期日程

看護学科は募集人員の約7倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

福祉健康科学部(設置予定)

入学志願者が著しく多い場合は、大学入試センター試験の成績(傾斜後の得点)により、次のとおり第1段階選抜を行います。

①前期日程

各コースの募集人員の約3倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

②後期日程

第1段階選抜は実施しません。

(4) 同点者の取り扱いについて

教育学部(改組予定)

それぞれの入試区分において同点者がいる場合は、大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

医学部

【前期日程】

・同点者がいる場合は、医学科は大学入試センター試験の数学I・数学Aの高得点者、大学入試センター試験の外国語の高得点者の順に高順位とします。

看護学科は大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

【後期日程】

・後期日程は、看護学科のみ実施します。

・同点者がいる場合は、大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

福祉健康科学部(設置予定)

それぞれの入試区分において同点者がいる場合は、大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

④ 平成 28 年度入学者選抜の実施教科・科目等及び配点

教科・科目名の表記方法について

- 1 大学入試センター試験の利用教科・科目名は、次のように略しています。
 - ・国語→国
『国語』→「国」
 - ・地理歴史→地歴
「世界史A」→「世A」, 「世界史B」→「世B」, 「日本史A」→「日A」,
「日本史B」→「日B」, 「地理A」→「地理A」, 「地理B」→「地理B」
※「同一名称のA・B出題科目」とは, 「世界史A」と「世界史B」, 「日本史A」と「日本史B」, 「地理A」と「地理B」を指します。
 - ・公民→公民
「現代社会」→「現社」, 「倫理」→「倫」, 「政治・経済」→「政経」,
『倫理, 政治・経済』→「倫・政経」
※「同一名称を含む出題科目」とは, 「倫理」と『倫理, 政治・経済』, 「政治・経済」と『倫理, 政治・経済』を指します。
 - ・数学→数
「数学Ⅰ」→「数Ⅰ」, 『数学Ⅰ・数学A』→「数Ⅰ・数A」,
「数学Ⅱ」→「数Ⅱ」, 『数学Ⅱ・数学B』→「数Ⅱ・数B」,
『簿記・会計』→「簿」, 『情報関係基礎』→「情報」, 「工業数理基礎」→「工」
 - ・理科→理
「物理基礎」→「物基」, 「化学基礎」→「化基」, 「生物基礎」→「生基」, 「地学基礎」→「地基」,
「物理」→「物」, 「化学」→「化」, 「生物」→「生」, 「地学」→「地学」
※「基礎を付した科目」とは, 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」を指します。
※「基礎を付さない科目」とは, 「物理」「化学」「生物」「地学」を指します。
※「同一名称を含む出題科目」とは, 「物理基礎」と「物理」, 「化学基礎」と「化学」, 「生物基礎」と「生物」, 「地学基礎」と「地学」を指します。
 - ・外国語→外
『英語』→「英」, 『ドイツ語』→「独」, 『フランス語』→「仏」, 『中国語』→「中」,
『韓国語』→「韓」

(注) 『 』で記載しているものは、2つの科目を総合したもの又は2つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだ出題科目です。
- 2 個別学力検査の出題教科・科目名は、上記1によるほか次のように略しています。
 - ・「国語総合」→「国総」
 - ・「数学A」→「数A」, 「数学B」→「数B」, 「数学Ⅲ」→「数Ⅲ」
 - ・「コミュニケーション英語Ⅰ」→「コ英Ⅰ」, 「コミュニケーション英語Ⅱ」→「コ英Ⅱ」, 「コミュニケーション英語Ⅲ」→「コ英Ⅲ」,
「英語表現Ⅰ」→「英表Ⅰ」, 「英語表現Ⅱ」→「英表Ⅱ」

◎36～40 ページの「各欄の注意事項」及び「旧教育課程履修者に対する「工業数理基礎」の経過措置について」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔平成27年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	
教育学部 ※改組予定 〔—〕 135人 前期 83 後期 22 推薦 30	小学校教育コース 125人 前期 80 後期 20 推薦 25	前期	国	国	国 数 外	国総(漢文を除く) 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※5	
		2月25日	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4			
	後期	地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2	その他	面接		
		公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } ※2 ①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3 ④物, 化, 生, 地学から2				
特別支援 教育コース 10人 前期 3 後期 2 推薦 5	前期	外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	その他	面接		
2月25日	後期	国	国	国 数 外	国総(漢文を除く) 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※5		
3月12日	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4					
後期	地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2	その他	面接			
	公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } ※2 ①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3 ④物, 化, 生, 地学から2					
3月12日	外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	その他	面接			

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。
- ※4 科目名等の「(工)」は「旧教育課程履修者に対する経過措置に係る科目」です。新教育課程履修者は選択解答できません。
- ※5 個別学力検査の〔 〕で示した配点は、個別学力検査で選択した科目の得点を合否判定に使用します。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の入試方法等
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	調査書	配点 合計	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200				900	推薦 追加合格
個別学力検査	[150]※5		[150]※5		[150]※5		150		300	
計	350	200	200	100	200		150		1200	
	350	100	200	200	200					
	200	200	350	100	200					
	200	100	350	200	200					
	200	200	200	100	350					
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200				900	推薦 追加合格
個別学力検査						200		200		
計	200	200 100	200	100 200	200		200		1100	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200				900	
個別学力検査	[150]※5		[150]※5		[150]※5		150		300	
計	350	200	200	100	200		150		1200	
	350	100	200	200	200					
	200	200	350	100	200					
	200	100	350	200	200					
	200	200	200	100	350					
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200				900	
個別学力検査							200		200	
計	200	200 100	200	100 200	200		200		1100	

◎36～40 ページの「各欄の注意事項」及び「旧教育課程履修者に対する「工業数理基礎」の経過措置について」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔平成27年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	
経済学部 〔4.5〕 305人 前期 120 後期 90 AO 20 推薦 75	経済学科 経営システム学 科 地域システム学 科	前期 2月25日	国	国	数 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※7 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※2			
			公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から2 ※2			
			数	数Ⅰ, 数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4			
		後期 3月12日	理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 } ①又は②			
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕			
			国	国	その他	小論文	
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※2			
公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から2 ※2						
数	数Ⅰ, 数Ⅰ・数A, 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工) ※4 } から1 ※6						
医学部 〔4.9〕 160人 前期 100 後期 10 AO 35 推薦 15	医学科 100人 前期 65 AO 35	前期 2月25日 と26日	国	国	数 理 外 その他	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 } から2 生基・生 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ 面接 ※数Bは「数列、ベクトル」	約3倍
			地歴	世B, 日B, 地理B } から1 ※8			
			公民	倫・政経 } から1 ※8			
			数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4			
		後期 3月12日	理	物, 化, 生から2			
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕			
			国	国	その他	小論文	
			地歴	世B, 日B, 地理B } から1 ※8			
公民	倫・政経 } から1 ※8						
数	数Ⅰ・数A, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工) ※4 } から1 ※6						
看護学科 60人 前期 35 後期 10 推薦 15	前期 2月25日	理	物, 化, 生から1 ※9	その他	面接	約7倍	
		外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科5科目〕				

※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。

※4 科目名等の「(工)」は「旧教育課程履修者に対する経過措置に係る科目」です。新教育課程履修者は選択解答できません。

※6 「数学」の科目において、2科目受験した場合は、高得点のものを合否判定に使用します。

※7 個別学力検査及び計の〔〕と<>で示した配点は、個別学力検査で選択した科目の得点を合否判定に使用します。

※8 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は、出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず本学が指定する科目の中から選択してください。

※9 「理科」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は、出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず本学が指定する科目の中から選択してください。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の入試方法等	
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	調査書	配点 合計		
センター試験	100	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200				800	AO入試 推薦 帰国子女 社会人 私費外国人 追加合格	
個別学力検査			[200]※7		<200>※7				200		
計	100	200	[400]※7 <200>※7	100	[200]※7 <400>※7				1000		
センター試験	100	100×2	100		100				500		
個別学力検査						200			200		
計	100	200	100		100	200			700		
センター試験	100	50	50×2	50×2	100				450		追加合格
個別学力検査			100	100×2	100		200		600		
計	100	50	200	300	200		200		1050		
センター試験	100	50	100	100	100				450		推薦 社会人 追加合格
個別学力検査						100			100		
計	100	50	100	100	100	100			550		
センター試験	100	50	100	100	100				450	追加合格	
個別学力検査							100		100		
計	100	50	100	100	100		100		550		

◎36～40 ページの「各欄の注意事項」及び「旧教育課程履修者に対する「工業数理基礎」の経過措置について」も確認してください。

学部・課程・学科等名及び入学定員等 〔平成27年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜
工学部 〔4.0〕 370人 前期 238 後期 66 推薦 66 機械・エネルギーシステム工学科 80人 前期 53 後期 15 推薦 12 電気電子工学科 80人 前期 52 後期 14 推薦 14	前期 2月25日	国	国	数理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	
		地歴 公民	世B、日B、地理B 倫・政経 } から1 ※8			
		数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿、情報、(工)から1 ※4			
		理	物 化			
	外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕				
	後期 3月12日	国	国	その他	面接	
		地歴 公民	世B、日B、地理B 倫・政経 } から1 ※8			
		数	数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報、(工)から1 ※4			
理		物 化				
知能情報システム工学科 70人 前期 44 後期 11 推薦 15 応用化学科 60人 前期 38 後期 10 推薦 12 福祉環境工学科 建築 50人 メディア 30人 計 80人 前期 51 建築 35 メディア 16 後期 16 建築 10 メディア 6 推薦 13 建築 5 メディア 8	前期 2月25日	国	国	数理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 } から1 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	
		地歴 公民	世B、日B、地理B 倫・政経 } から1 ※8			
		数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿、情報、(工)から1 ※4			
		理	物 化			
	外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕				
	後期 3月12日	国	国	その他	面接	
		地歴 公民	世B、日B、地理B 倫・政経 } から1 ※8			
		数	数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報、(工)から1 ※4			
理		物 化				
外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕					

※4 科目名等の「(工)」は「旧教育課程履修者に対する経過措置に係る科目」です。新教育課程履修者は選択解答できません。
 ※8 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は、出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず本学が指定する科目の中から選択してください。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の入試方法等
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	調査書	配点 合計	
センター試験	150	75	50×2	50×2	200				625	推薦 帰国子女 私費外国人
個別学力検査			200	200					400	
計	150	75	300	300	200				1025	追加合格
センター試験	125	75	150×2	100×2	200				900	
個別学力検査							200		200	
計	125	75	300	200	200		200		1100	
センター試験	150	75	50×2	50×2	200				625	推薦 帰国子女 私費外国人
個別学力検査			200	200					400	
計	150	75	300	300	200				1025	追加合格
センター試験	125	75	150×2	100×2	200				900	
個別学力検査							200		200	
計	125	75	300	200	200		200		1100	

◎36～40 ページの「各欄の注意事項」及び「旧教育課程履修者に対する「工業数理基礎」の経過措置について」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔平成27年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査						
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜				
福祉健康 科学部 ※設置予 定 〔一〕 100人 前期 78 後期 16 推薦 6	高度リハ ビリテー ションコ ース 30人 前期 25 後期 5 推薦 -	前期 2月25日	国	国	その他 その他	小論文 面接	約3倍			
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B				} から1 ※10		
			公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経						
		後期 3月12日	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4	} ③又は④					
			理	③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※11						
			外	④物, 化, 生, 地学から2						
	社会福祉 実践コー ス 35人 前期 23 後期 6 推薦 6	前期 2月25日	国	国	その他 その他	小論文 面接	約3倍			
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B				} から2 ※2		
			公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経						
		後期 3月12日	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4	} ①又は②					
			理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1						
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕						
心理学コ ース 35人 前期 30 後期 5 推薦 -	前期 2月25日	国	国	その他 その他	小論文 面接	約3倍				
		数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4				} ※1			
		地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B							
	後期 3月12日	公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経	} ※1						
		理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3							
		外	④物, 化, 生, 地学から2							
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕	その他 その他	小論文 面接				
				国				国	その他 その他	小論文 面接
				数				数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工)から1 ※4		
		理		①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3						
			公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経	} ※1					
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B						
	外		英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕							

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。
- ※4 科目名等の「(工)」は「旧教育課程履修者に対する経過措置に係る科目」です。新教育課程履修者は選択解答できません。
- ※10 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。
- ※11 「理科」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、出願資格を満たさないこととなります。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の入試方法等
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	調査書	配点 合計	
センター試験	200	100	100×2	③50×2+100 ④100×2	200				900	追加合格
個別学力検査						300	100		400	
計	200	100	200	200	200	300	100		1300	
センター試験	200	100	100×2	③50×2+100 ④100×2	200				900	追加合格
個別学力検査						100	300		400	
計	200	100	200	200	200	100	300		1300	
センター試験	200	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200				900	推薦 追加合格
個別学力検査						300	100		400	
計	200	200	200	100	200	300	100		1300	
センター試験	200	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200				900	追加合格
個別学力検査						100	300		400	
計	200	200	200	100	200	100	300		1300	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200				900	追加合格
個別学力検査						100	300		400	
計	200	200 100	200	100 200	200	100	300		1300	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200				900	追加合格
個別学力検査						300	100		400	
計	200	200 100	200	100 200	200	300	100		1300	

◎各欄の注意事項

全学部共通事項

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- (1) 「英語」にはリスニングテストを含みます。リスニングテストを受験しなかった場合は、出願資格はありません（リスニングテストを免除された者は除く）。
「英語」の成績は、筆記試験とリスニングテストの合計点を200点満点に圧縮し、他の外国語と比較できるようにします。なお、入学者選抜の配点にあたっては、28～35ページの表に記載している大学入試センター試験の外国語の配点に換算します。ただし、リスニングテストを免除された者については、筆記試験（200点満点）の得点のみを利用します。
- (2) 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校において、これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。
- (3) 「工業数理基礎」は、「旧教育課程履修者に対する経過措置に係る科目」です。新教育課程履修者は選択解答できません。

【その他】

- (1) 大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目を受験しなかった場合は、出願資格はありません。
- (2) 個別学力検査で必要な教科・科目を受験しなかった場合は0点ではなく、不合格となります。

教育学部（改組予定）

【個別学力検査】欄

【前期日程】

- (1) 国語、数学、外国語から試験開始後に1教科を選択して受験してください。
- (2) 面接は、コースごとに、集団面接を行います。集団面接は、集団討論の方式で実施します。

【後期日程】

- ・面接は、コースごとに、集団面接を行います。集団面接は、集団討論の方式で実施します。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

・大学入試センター試験の（ ）で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い
地歴 公民 理科	<p>世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2</p> <p>現社, 倫, 政経, 倫・政経 } ※2</p> <p>①物基, 化基, 生基, 地基から2</p> <p>②物, 化, 生, 地学から1</p> <p>③物基, 化基, 生基, 地基から2と物, 化, 生, 地学から1 ※3</p> <p>④物, 化, 生, 地学から2</p> <p>※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④</p> <p>※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。</p> <p>※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。</p>	<p>「地理歴史」及び「公民」を2科目受験し、理科の科目において、</p> <p>(a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</div> <div style="margin: 0 5px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">高得点の2つ</div> <div style="margin: 0 5px;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">合否判定に使用する得点</div> </div> <p>ただし、理科の科目において同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</div> <div style="margin: 0 5px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">高得点の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">合否判定に使用する得点</div> </div> <p>(b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">高得点の得点</div> <div style="margin: 0 5px;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">合否判定に使用する得点</div> </div>

経済学部

【学部・課程・学科等名及び入学定員等】欄

・後期日程の入学定員には、帰国子女入試（若干名）、社会人入試（若干名）及び私費外国人留学生入試（若干名）を含みます。

【個別学力検査】欄

【後期日程】

・小論文は、高等学校の段階における総合的な学力到達度を検査する大学入試センター試験を補うものとして、次の資質をみようとするものであり、広く社会科学の素材に基づく出題を行います。ただし、専門的知識・用語は必要としません。

- (a) 理解力（あるいは大意把握力） (b) 論理的思考力 (c) 表現力

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

(1) 大学入試センター試験の () で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い
理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 } ①又は②	前期日程の理科の科目において, (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は, <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高得点の得点を合否判定に使用</div> </div>
		(b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は, <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">第1解答科目</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">第2解答科目</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第1解答科目の得点を合否判定に使用</div> </div>

(2) 個別学力検査及び計の [] と < > で示した配点は、個別学力検査で選択した科目の得点を合否判定に使用します。

医学部

【学部・課程・学科等名及び入学定員等】欄

・看護学科において、後期日程の入学定員には、社会人入試の入学定員（若干名）を含みます。

【個別学力検査】欄

【前期日程】

- (1) 医学科において、理科の科目は、試験開始後に2科目を選択してください。
- (2) 医学科において、理科の出題範囲は次のとおりです。
 - (ア) 物理は、「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - (イ) 化学は、「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - (ウ) 生物は、「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
- (3) 医学科の面接は、医学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲などを総合的に評価します。なお、面接の評価が著しく低い場合には、総合得点に関わらず不合格とします。
- (4) 看護学科の小論文は、課題式や資料式の小論文を出題し、論理的思考力、表現力、読解力及び看護学を学ぶための適性を評価します。

【後期日程】

・看護学科の面接は、看護学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲・倫理観等を総合的に評価します。

工学部

【学部・課程・学科等名及び入学定員等】欄

・前期日程の入学定員には、帰国子女入試（若干名）及び私費外国人留学生入試（若干名）を含みます。

【個別学力検査】欄

【前期日程】

- (1) 第1志望の学科に必要な個別学力検査受験科目（理科）を受験していない場合は、第1～第3志望とも判定の対象になりません。
- (2) 第2志望以下の個別学力検査受験科目（理科）は、「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」のいずれでもかまいません。
- (3) 理科の出題範囲は次のとおりです。
 - (ア) 物理は、「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - (イ) 化学は、「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

【後期日程】

・面接では志願学科やそれに関わる分野への関心、意欲、積極性、理解力、自己表現力をみます。

福祉健康科学部（設置予定）

【個別学力検査】欄

【前期日程・後期日程】

・個別学力検査では、小論文及び面接を全員に課します。小論文では論理的思考力、表現力（文章構成を含む）を、面接ではコミュニケーション能力、協調性、積極性などをみます。なお、面接の評価が著しく低い場合には、総合得点に関わらず不合格とします。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

・大学入試センター試験の（ ）で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い
(ア) 理	①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1 } ①又は②	理科の科目において、 (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、 理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点 理科の「基礎を付さない科目」の得点 } 高得点を合否判定に使用 (b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、 第1解答科目 第2解答科目 } 第1解答科目の得点を合否判定に使用
(イ) 地歴 公民 理	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2 現社、倫、政経、倫・政経 ※2 ①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地基から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2 } ※1 ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④ ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。 ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。	「地理歴史」及び「公民」を2科目受験し、理科の科目において、 (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、 「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点 + 「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点 + 理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点 + 理科の「基礎を付さない科目」の得点 = 高得点の2つ = 合否判定に使用する得点 ただし、理科の科目において同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、 「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点 + 「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点 + 理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点 + 理科の「基礎を付さない科目」の得点 = 高得点の得点 = 合否判定に使用する得点 (b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、 「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点 + 理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点 + 「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点 + 理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点 = 高得点の得点 = 合否判定に使用する得点

◎旧教育課程履修者に対する「工業数理基礎」の経過措置について

平成 28 年度一般入試における旧教育課程履修者に対する「工業数理基礎」の経過措置は、次のとおりです。

大学入試センター試験の科目について

旧教育課程履修者については、28～35 ページの表の【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄において（ ）内に記載した「工業数理基礎」で受験することを認めます。ただし、高等学校若しくは中等教育学校において「工業数理基礎」を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

新・旧教育課程履修者について

新教育課程履修者	①高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に平成 25 年 4 月に入学し、平成 28 年 3 月卒業見込みの者 ②中等教育学校の後期課程に平成 25 年 4 月に進級し、平成 28 年 3 月卒業見込みの者
旧教育課程履修者	上記以外の者 *高等学校等卒業者、高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込み者、大学入学資格検定合格者、高等専門学校第 3 学年修了者又は修了見込み者、外国の学校等修了者又は修了見込み者、在外教育施設修了者又は修了見込み者、及び高等学校等を平成 28 年 3 月卒業見込みであるが、入学は平成 25 年 3 月以前の者など、上記に該当しない者

【注】「新教育課程」とは、平成 25 年 4 月 1 日から適用された高等学校学習指導要領（平成 21 年文部科学省告示第 34 号）に基づく教育課程及び平成 21 年 3 月 9 日文部科学省告示第 38 号の特例により定められた教育課程をいい、「旧教育課程」とは、従前の高等学校学習指導要領に基づく教育課程をいいます。

(2) 推薦入試

推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

① 推薦要件

次の各号に該当する者で、高等学校長、中等教育学校長、特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

- 1 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を平成28年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、平成27年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。）
- 2 合格した場合は、入学することを確約できる者
- 3 次表（推薦入試募集人員・推薦要件・検査項目一覧表）の各学部・学科・コース等の掲げる推薦要件を満たす者

② 入学者選抜方法等

大学入試センター試験を免除し、次表の検査項目及び調査書、志望理由書、推薦書に基づいて総合判定します。

推薦入試募集人員・推薦要件・検査項目一覧表

学部	学科・コース等	推薦区分	募集人員	推薦人員	推薦要件	検査項目
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 【注1】	普通推薦	50	各高等学校等から4名以内	(1) 高等学校等の普通科又はその他の学科で本学が普通科に準ずると認める学科・課程（いわゆる職業教育を主とする学科以外の学科）を卒業見込みの者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 校内外を問わず自主的勉学ないし活動において特に優れた成果をあげている者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	小論文 面接
		商業推薦	25	制限なし	(1) 高等学校等の商業に関する学科・課程又はその他の学科を卒業見込みの者。ただし、 商業に関する学科・課程以外 を卒業見込みの者については、 商業に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (2) 高等学校等の最終年次における成績が 上位10%以内 の者 (3) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	面接 小論文
	計	75				
医学部	看護学科		15	各高等学校等から3名以内	(1) 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 ※④に該当する者については、調査書に④と表示してください。 (2) 看護職者あるいは看護学研究者として活躍しようとする、はっきりした目的意識を持ち、他者への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者	小論文 面接
	計		15			

【注1】経済学部は、入学後に所属学科を決定します。

学部	学科・コース等	推薦区分	募集人員	推薦人員	推薦要件	検査項目
工 学 部	機械・エネルギーシステム工学科	A推薦	9		(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 高等学校等において「物理」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	基礎能力試験 面接
		B推薦	3	各高等学校等からA推薦、B推薦合わせて4名以内	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 機械又は電気 に関する学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した(見込みを含む。)者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
	電気電子工学科	A推薦	11		(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に物理が優秀な者 (3) 高等学校等において「物理」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	基礎能力試験 面接
		B推薦	3	各高等学校等からA推薦、B推薦合わせて3名以内	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 電気又は電子 に関する学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した(見込みを含む。)者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に物理が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
	知能情報システム工学科	A推薦	10		(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (3) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	基礎能力試験 面接
		B推薦	5	各高等学校等からA推薦、B推薦合わせて3名以内	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 情報又は計算機 に関する 工業系 の学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 情報又は計算機に関する科目8単位以上を含む工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した(見込みを含む。)者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	

学部	学科・コース等	推薦区分	募集人員	推薦人員	推薦要件	検査項目
工	応用化学科	A推薦	10	制限なし	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	基礎能力試験 面接
		B推薦	2		(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 化学 に関する学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した(見込みを含む。)者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
学	福祉環境工学科【注2】	建築コース B推薦【注3】	5	制限なし	(1) 本学科・コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 建築系又は土木系 の学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 建築又は土木に関する教科・科目を20単位以上 修得した(見込みを含む。)者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	基礎能力試験 面接
		メカトロニクスコース B推薦【注3】	2	制限なし	(1) 本学科・コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (3) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	基礎能力試験 面接
部	計		66			

【注2】工学部福祉環境工学科には建築コース(入学定員50名)とメカトロニクスコース(入学定員30名)の2コースがあります。推薦入試の合格者は、入学後は志願時に希望したコースに所属して学びます。

【注3】工学部福祉環境工学科のB推薦において、出身学校の課程・学科、履修科目と希望コースが整合しているかどうか疑問の場合は、事前に入試課へ申し出てください。

学部	学科・コース等		推薦区分	募集人員	推薦人員	推薦要件	検査項目
福祉健康科学部 (設置予定)	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦	5	各高等学校等から2名以内	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者	小論文 面接
			福祉推薦	1	各高等学校等から2名以内	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 福祉に関する学科・課程又はその他の学科 を卒業見込みの者。ただし、次のいずれかに該当する者 ① 文部科学省が指定する「福祉系高等学校等」「特例高等学校等」において「教科福祉」に含まれる科目を12単位以上修得した(見込みを含む。)者 ② ①以外の高等学校等で福祉関係のコースや課程、系列において、福祉に関する科目を12単位以上修得した(見込みを含む。)者 (3) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者	小論文 面接
	計		6				
合 計				162			

③ 配点

学部	学科・コース等		小論文	基礎能力試験	面接		志望理由書	推薦書	調査書	合計
					個人面接	集団面接				
経済学部	経済学 経営システム学 地域システム学	学科	60			60		30		150
医学部	看護学	科	100			100				200
工学部	全学	科		300		150		50		500
福祉健康科学部 (設置予定)	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	100			100				200

④ 出願期間

平成27年11月2日(月)～6日(金)

⑤ 選抜期日

平成27年11月18日(水)

⑥ 合格者発表

平成27年12月1日(火)

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

① 推薦要件

次の各号に該当する者で、高等学校長、中等教育学校長、特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

- 1 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を平成28年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、平成27年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。）
- 2 合格した場合は、入学することを確約できる者
- 3 次表（推薦入試募集人員・推薦要件・検査項目一覧表）の各コースの掲げる推薦要件を満たす者

② 入学者選抜方法等

大学入試センター試験、面接及び調査書、志望理由書、推薦書に基づいて総合判定します。

推薦入試募集人員・推薦要件・検査項目一覧表

学部	課程・コース	募集人員	推薦人員	推薦要件	検査項目
教育学部 (改組予定)	学校教育コース	25	各高等学校等から5名以内	人物的に優れ、かつ、小学校教育に対する意欲と情熱を有し、教員としての適性がある者	面接
	特別支援教育コース	5	制限なし	人物的に優れ、かつ、特別支援教育に対する意欲と情熱を有し、教員としての適性がある者	面接
	計	30			

【注】面接は、個人面接と集団面接を行います。集団面接は、集団討論の方式で実施します。ただし、志願者数によっては集団面接を行わないことがあります。その場合は、個人面接のみを行います。

大学入試センター試験指定教科・科目

学部	課程・コース	大学入試センター試験指定教科・科目名	
		教科	科目名等
教育学部 (改組予定)	学校教育コース	国	国
		数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, (工) から1 ※4
	地歴 公民 理	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } ※2 ①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3 ④物, 化, 生, 地学から2 } ※1	
	特別支援教育コース	外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7～8科目又は6教科7～8科目]

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。
- ※4 科目名等の「(工)」は「旧教育課程履修者に対する経過措置に係る科目」です。新教育課程履修者は選択解答できません。

③ 配点

学部	課程・コース	大学入試 センター 試験	面接		志 望 理由書	推薦書	調査書	合 計
			個人 面接	集団 面接				
教育学部 (改組予定)	学校教育教員養成課程 小 学 校 教 育 コ ー ス	900	300	300				1500
	特 別 支 援 教 育 コ ー ス	900	300	300				1500

【注】面接は、個人面接と集団面接を行います。志願者数によっては集団面接を行わないことがあります。集団面接を行わない場合は、個人面接の配点を600点として大学入試センター試験と合わせて1500点で合否判定を行います。

④ 出願期間

平成27年11月2日(月)～6日(金)

⑤ 選抜期日

平成27年11月18日(水)

⑥ 合格者発表

平成28年2月10日(水)

(3) アドミッション・オフィス入試(AO入試)

〔経済学部〕

〔AO入試〕

<p>実施学部 学 科 名</p>	<p>経済学部 経済学科 経営システム学科 【注】 地域システム学科</p>
<p>募集人員</p>	<p>20名（英語資格 5名，簿記資格 15名）</p>
<p>〔出願資格〕 次の（1）に該当する者で，かつ，（2）の要件を満たし，入学試験に合格した場合は入学することを確約できる者です。</p> <p>（1）高等学校，中等教育学校，特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため，平成27年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で，調査書の履修科目全体の評定平均値が3.5以上の者</p> <p>（2）次のいずれかの資格を有する者 英語資格：実用英語技能検定（英検）2級以上 TOEICスコア480点以上 GTEC for STUDENTSスコア580点以上又はGTEC CBT スコア850点以上 簿記資格：日本商工会議所簿記検定試験（日商簿記）2級以上</p>	
<p>選 抜 方 法 等</p>	<p>大学入試センター試験と個別学力検査を免除し，小論文，面接及び提出書類を総合して選抜します。選抜方法は2段階選抜とします。</p> <p>（1）第1次選考 自己推薦書及び調査書により選抜します。 自己推薦書及び調査書では，高等学校等での学習活動（高大接続関連事業による学習活動を含む。），取得資格に関わる活動状況や今後の目標，本学入学後の勉学意欲等についてみます。 ※第1次選考の合格者数は，英語資格・簿記資格とも募集人員の3倍程度とします。</p> <p>（2）第2次選考 第1次選考の合格者を対象に，小論文及び個人面接により選抜します。 小論文では，社会科学的素材に基づく出題を行い，理解力（あるいは大意把握力），論理的思考力，表現力をみます。個人面接では，提出書類も参考にして，取得資格に関する能力，積極性，自己表現能力をみます。なお，英語資格の個人面接では英語での質疑応答，簿記資格の個人面接では簿記（日商簿記2級相当の内容）に関する質疑応答の時間があります。</p>
<p>出 願 期 間</p>	<p>平成27年8月17日（月）～8月21日（金）</p>
<p>選 抜 期 日 （第2次選考）</p>	<p>平成27年9月25日（金）</p>
<p>合格者発表日</p>	<p>平成27年10月16日（金）</p>

【注】所属学科は，入学後に決定します。

実施学部 学 科 名	医学部医学科
募集人員	35名（一般枠22名，地域枠13名）

〔出願資格〕

【一般枠】

高等学校，中等教育学校，特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を平成26年3月以降に卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため，平成27年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で，大学入試センター試験の実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し，かつ，次の要件を満たす者です。

1. 高等学校等における学習成績が優秀で，調査書の学習成績概評が**A段階**に属する者
※**④**に該当する者については，調査書に**④**と表示してください。
2. 臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする，明確な目的意識を持ち，病める人々への思いやりと共感，生涯学習への意志と体力を持った者
3. 合格した場合は，入学することを確約できる者

【地域枠】

上記出願資格に加え，次の要件を満たす者です。

- ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し，大学卒業後，大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者で，大分県が指定するべき地医療拠点病院等で実施する体験活動（8月中の連続する3日間実施）を受けた者

※ **一般枠と地域枠との併願は認められません。**

※ **平成25年8月又は平成26年8月に本体験活動を受け，「体験活動日誌」及び「体験活動感想文」を提出済の者については，本体験活動を再度受ける必要はありません。**

※ **本体験活動は，地域枠で出願するためにのみ実施するものです。**

- (1) 第1次選考
一般枠，地域枠ともに，大学入試センター試験の成績により第1次選考（一般枠，地域枠ともに募集人員の約2.5倍）を行い，第2次選考の対象者を決定します。
- (2) 第2次選考
一般枠，地域枠ともに，面接（個人面接及び集団面接）を行い，自己推薦書，調査書，特別活動に関する調査書及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価し，合格者を決定します。
なお，同点者がいる場合は，大学入試センター試験の総得点の高得点者，大学入試センター試験の理科の高得点者の順に高順位とします。

実施教科・科目等及び配点

大学入試センター試験の利用教科・科目名		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
教科	科目名等	試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	面接	合計
国	国	センター試験	100	50	50×2	50×2	100		450
地歴 公民	世B，日B，地理B 倫・政経	} から1 個別学力検査等						540	540
数	数I・数A 数II・数B		計	100	50	100	100	100	540
理	物，化，生から2	} から1 [5教科7科目]							
外	英，独，仏，中，韓								

【注1】 「地理歴史」及び「公民」の科目において，2科目受験した場合は，第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお，第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は，**出願資格を満たさないこと**となりますので，第1解答科目は，必ず本学が指定する科目の中から選択してください。

【注2】 「英語」はリスニングテストを含みます。筆記試験とリスニングテストの双方を受験してください（リスニングテストを免除された者は除く）。「英語」の成績は，筆記試験とリスニングテストの合計点を200点満点に圧縮し，他の外国語と比較できるようにします。なお，入学者選抜の配点にあたっては，上記の表に記載している大学入試センター試験の外国語の配点に換算します。ただし，リスニングテストを免除された者については，筆記試験（200点満点）の得点のみを利用します。

【注3】 本学では平成28年度の入学試験において，大学入試センター試験の前年度以前の成績は利用しません。

出願期間	平成27年11月2日（月）～11月6日（金） 〔へき地医療拠点病院等体験活動の申込期間（地域枠のみ）〕 平成27年7月1日（水）～7月8日（水）（土日を除く）
------	---

選抜期日 （第2次選考）	平成28年2月7日（日） 午前の部：9時00分～ 午後の部：13時00分～
-----------------	--

合格者発表日	平成28年2月10日（水）
--------	---------------

その他	地域枠で入学した学生全員に，大分県医師修学資金が貸与されます。大学卒業後，大分県知事の指定する医療機関において，貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間を医師として勤務した場合，全額返還を免除します。
-----	--

(4) 帰国子女入試

実施学部 学科等名	経済学部	工学部		
	経済学科 経営システム学科 【注1】 地域システム学科	機械・エネルギーシステム工学科 電気電子工学科 知能情報システム工学科 応用化学科 福祉環境工学科【注2】 ・建築コース ・メカトロニクスコース		
募集人員	若干名（定員内）	若干名（定員内）		
<p>〔出願資格〕</p> <p>日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、保護者の海外勤務等やむを得ない事情により海外に移住し、次のいずれかに該当する者です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国の正規の学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育期間を含みません。）を2014年4月1日から2016年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、外国において最終の学年を含め2年以上継続して正規の学校教育を受けているもの ただし、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、外国において学校教育を受けた期間とはみなしません。 2. 外国及び国内において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を2014年又は2015年に授与された者で、2016年4月1日現在満18歳に達しているもの 3. 外国及び国内において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2014年又は2015年に授与された者で、2016年4月1日現在満18歳に達しているもの 4. 外国及び国内において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を2014年又は2015年に授与された者で、2016年4月1日現在満18歳に達しているもの 				
選抜方法等	経済学部	工学部		
	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選考します。	大学入試センター試験を免除し、学力検査、面接及び提出書類を総合して選考します。 学力検査は下記のとおりです。		
		学科 教科等	・機械・エネルギーシステム工学科 ・電気電子工学科	・知能情報システム工学科 ・応用化学科 ・福祉環境工学科
		理 科	「物理基礎・物理」	「物理基礎・物理」又は「化学基礎・化学」から1科目
		英 語	コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ	
数 学	「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率，図形の性質」 ※数学Bは「数列，ベクトル」			
出 願 期 間	2016年1月18日（月）～22日（金）			
選 抜 期 日	2016年2月5日（金）			
合格者発表日	2016年2月15日（月）			

【注1】 所属学科は、入学後に決定します。

【注2】 工学部福祉環境工学科には、建築コースとメカトロニクスコースの2コースがあります。
合格者は、志願時に希望したコースに所属して学びます。

(5) 社会人入試

〔経済学部〕

〔社会人入試〕

実施学部 学科名	経済学部
	経済学科 経営システム学科 【注】 地域システム学科
募集人員	若干名（定員内）
〔出願資格〕 平成28年4月1日現在で、下記1～3に示すいずれかの基礎資格取得後、社会人経験を5年以上有する満23歳以上の者です。 なお、社会人経験には、家事従事期間及び定職を持ち定時制、夜間又は通信制の学校（大学を含む。）に在学した期間が含まれます。 1. 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 3. 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者	
選抜方法等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選考します。
出願期間	平成28年1月18日（月）～22日（金）
選抜期日	平成28年2月5日（金）
合格者発表日	平成28年2月15日（月）

【注】所属学科は、入学後に決定します。

〔医学部〕

〔社会人入試〕

実施学部 学科名	医学部看護学科
募集人員	若干名（定員内）
<p>〔出願資格〕</p> <p>次の各号のいずれかに該当する者のうち、平成28年4月1日現在、社会人経験4年以上を有する年齢25歳以上の者で、合格した場合は、入学することを確約できるもの</p> <p>なお、社会人経験には、家事従事期間及び定職を持ち定時制又は通信制の高等学校に在学した期間を含みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 3. 学校教育法施行規則第150条（第6号を除く。）の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 	
選抜方法等	大学入試センター試験を免除し、出願書類、小論文及び面接を総合評価の上、合格者を決定します。
出願期間	平成27年7月21日（火）～24日（金）
選抜期日	平成27年8月18日（火）
合格者発表日	平成27年9月8日（火）

(6) 私費外国人留学生入試

実施学部 学科等名	経済学部	工学部
	経済学科 経営システム学科 【注1】 地域システム学科	機械・エネルギーシステム工学科 電気電子工学科 知能情報システム工学科 応用化学科 福祉環境工学科【注2】 ・建築コース ・メカトロニクスコース
募集人員	若干名（定員内）	若干名（定員内）

〔出願資格〕

次の1及び2をすべて満たしていること。

1. 日本国籍を有しない者で、外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び2016年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
2. 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（2014年度の第1回、第2回又は2015年度の第1回、第2回の成績の利用を可とするが、複数回受験した者は、出願時にいずれかを指定すること）を受験し、学部ごとに下記の要件を満たしている者

（経済学部）

下記の経済学部で課せられている全試験科目を受験し、日本語の「聴解・聴読解」、「読解」の総得点が180点以上であること、及び総合科目と数学の得点の合計が200点以上であること。

（工学部）

下記の工学部で課せられている全試験科目を受験し、日本語の「聴解・聴読解」、「読解」、「記述」の総得点が5割以上であること。

日本留学試験で課す科目について

学部	学 科 等	利用科目	数学の選択	理科の選択	出題言語
経済学部	経済学科 経営システム学科 【注1】 地域システム学科	日本語 総合科目 数 学	コース1 (文系)	(該当なし)	日本語 又は 英 語
工学部	機械・エネルギーシステム工学科 電気電子工学科 知能情報システム工学科 応用化学科 福祉環境工学科【注2】 ・建築コース ・メカトロニクスコース	日 本 語 理 科 数 学	コース2 (理系)	物理 } 化学 } から 生物 } 2科目	日本語 又は 英 語

本学で実施する学力検査等について

学部	課程・学科等	検査科目等
経済学部	経済学科 経営システム学科 【注1】 地域システム学科	数学又は英語から1教科 数学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ」 英語 「コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ， コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ」 小論文 面接
工学部	機械・エネルギーシステム工学科 電気電子工学科	理科 「物理基礎・物理」 英語 「コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ」 数学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率，図形の性質」 ※数学Bは「数列，ベクトル」 面接
	知能情報システム工学科 応用化学科 福祉環境工学科【注2】 ・建築コース ・メカトロニクスコース	理科 「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」から1科目 英語 「コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ」 数学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率，図形の性質」 ※数学Bは「数列，ベクトル」 面接

【注1】所属学科は，入学後に決定します。

【注2】工学部福祉環境工学科には，建築コースとメカトロニクスコースの2コースがあります。

合格者は，志願時に希望したコースに所属して学びます。

出願期間	2016年1月18日（月）～22日（金）
選抜期日	2016年2月5日（金）
合格者発表日	2016年2月15日（月）
選抜方法等	日本留学試験並びに本学で実施する学力検査等（上記）及び出願書類を総合して選考します。

4. 障がいのある者等の事前相談

障がいを有する等、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

募集要項にて公表します。ただし、期限後に不慮の事故等により障がいのある状態になったときには、その時点ですみやかに申し出てください。

(2) 申出方法

申請書（診断書等必要書類添付）を提出してください。必要な場合は、本学において、志願者本人またはその立場を代弁しうる関係者等との面談を行います。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

5. 東日本大震災により被災した者、または東日本大震災や福島原子力発電所事故により転学等をした者の事前相談

東日本大震災により被災した入学志願者、または東日本大震災や福島原子力発電所事故により転学等をした入学志願者で、本学の受験に際し特別な措置が必要な者及び修学上特別な配慮が必要な者は、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

募集要項及び本学ホームページにて公表します。

(2) 申出方法

志願者本人またはその立場を代弁しうる関係者等から、直接または電話により申し出てください。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

なお、東日本大震災に関する入試情報については、本学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) に詳細を掲載しています。

6. 入試過去問題の使用について

大分大学は、「入試過去問題活用宣言」に参加を表明しています。ただし、出題科目である「数学」と「小論文」は参加しません。

(1) 本学のアドミッション・ポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学で過去に出された問題を使用して出題することがあります。

なお、過去問題は必ず使用するとは限りません。

(2) 入試過去問題を使用して出題する場合は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、入試過去問題を使用した場合は、入学試験終了後、受験者にわかる形で使用過去問題を公表します。

(3) 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧は、次のホームページにて公表しています。 <http://www.nyushikakomon.jp/>

平成27年度一般入試合格者の成績

【前期日程】

学 部	課程・学科(コース・分野)	募集人員	合格者数	満点	最高点	最低点	平均点
教育福祉科学部	学校教育課程						
	発達教育コース	19	21	650	448.20	392.10	426.13
	特別支援教育コース	3	4	650			
	教科教育コース	41	45	650	535.60	362.80	437.90
	情報社会文化課程						
	社会文化コース	7	8	650			419.34
	情報教育コース	11	13	650	385.60	354.70	365.33
	総合表現コース	7	8	650			483.49
	人間福祉科学課程						
	社会福祉コース	24	27	650	492.60	373.50	414.64
	心理健康福祉コース	14	16	650	476.30	383.90	427.09
	(心理分野)	7	8	650			451.56
	(スポーツ・健康分野)	7	8	650			402.61
	生活環境福祉コース	20	21	650	455.10	367.10	397.88
(生活分野)	10	10	650	428.50	378.70	392.14	
(環境分野)	10	11	650	455.10	367.10	403.09	
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科	120	152	1,000	802.60	586.50	626.45
医学部	医学科 看護学科	65 35	65 37	1,050 550	818.00 434.20	708.90 362.00	750.81 386.16
工学部	機械・エネルギーシステム工学科	53	60	1,025	757.25	554.90	602.43
	電気電子工学科	52	58	1,025	677.60	544.35	589.84
	知能情報システム工学科	44	52	1,025	728.95	570.45	621.33
	応用化学科	38	43	1,025	728.85	592.10	628.74
	福祉環境工学科 建築コース	35	40	1,025	707.90	610.55	642.77
	福祉環境工学科 メカトロニクスコース	16	21	1,025	688.00	550.30	590.19

【後期日程】

学 部	課程・学科(コース・分野)	募集人員	合格者数	満点	最高点	最低点	平均点
教育福祉科学部	学校教育課程						
	発達教育コース	6	8	550			361.14
	特別支援教育コース	2	2	550			
	教科教育コース	11	16	550	455.20	360.60	390.06
	情報社会文化課程						
	社会文化コース	3	4	500			
	情報教育コース	4	7	500			335.30
	総合表現コース	3	3	500			
	人間福祉科学課程						
	社会福祉コース	5	7	600			363.67
	心理健康福祉コース	8	10	600	442.3	370.7	403.02
	(心理分野)	3	5	600			
	(スポーツ・健康分野)	5	5	600			
	生活環境福祉コース	6	11	600	402.7	362.9	382.88
(生活分野)	3	5	600				
(環境分野)	3	6	600			390.67	
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科	90	115	700	529.20	459.80	481.29
医学部	医学科 看護学科	— 15	— 18	— 550	— 473.40	— 359.20	— 393.44
工学部	機械・エネルギーシステム工学科	15	19	1,100	863.275	678.600	772.710
	電気電子工学科	14	14	1,100	877.625	674.275	780.890
	知能情報システム工学科	11	11	1,100	830.300	765.100	799.680
	応用化学科	10	19	1,100	902.900	773.775	814.180
	福祉環境工学科 建築コース	10	10	1,100	940.325	794.725	834.690
	福祉環境工学科 メカトロニクスコース	6	6	1,100			771.150

- ※ 追加合格者は除く。
- ※ 合格者が10人未満の場合は、平均点のみ開示。
- ※ 合格者が5人以下の場合は、個人情報となるので不開示。

8. 募集要項の請求方法

各入試に出願するためには、願書が同封された募集要項が必要です。

募集要項の請求方法には、(1) インターネットで請求、(2) 大分大学に郵送で請求、(3) 大分大学学生支援部入試課の窓口で受領、(4) 電話（テレメール）で請求の4つの方法があります。


なお、(1) インターネットで請求及び(4) 電話（テレメール）で請求の募集要項の送付状況等についてのお問い合わせは、大分大学では対応できませんので、それぞれのお問い合わせ先に電話をしてください。

募集要項等	公表 予定時期
一般入試学生募要項	12月上旬
推薦入試学生募集要項	10月上旬
経済学部AO入試学生募集要項	6月中旬
医学部医学科AO入試学生募集要項	6月中旬
特別入試学生募集要項（帰国子女・社会人・私費外国人留学生） ※医学部看護学科社会人入試を除く	12月上旬
医学部看護学科社会人入試学生募集要項	6月下旬
大学案内（受験者向けパンフレット）	6月下旬

※医学部看護学科社会人入試学生募集要項については、インターネット及び電話（テレメール）での請求ができません。

(1) インターネットで請求

次の2つのサービスのいずれかを利用して、募集要項を請求することができます。パソコンから下記 URL にアクセスするか、携帯電話・スマートフォンで下記バーコードを読み取ってそれぞれのサイトにアクセスして、請求をしてください。なお、請求方法の詳細は、各サイトの指示に従ってください。

	パソコンから請求	携帯電話・スマートフォンから請求
テレメール	http://telemail.jp	
	※資料請求番号は、58 ページを参照してください。 ※テレメールでの資料請求に関するお問い合わせ先 テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (9:30~18:00)	
モバっちょ	http://djcm-b.jp/oita-u3/	
	※モバっちょでの資料請求に関するお問い合わせ先 TEL 050-3540-5005 (平日 10:00~18:00)	

※本学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/05shiryo.html>) にアクセスし、各サービスのボタンをクリックして、各サイトに移動することもできます。

(2) 大分大学に郵送で請求

募集要項を郵送する際に必要な郵便料金分（下記【郵便料金一覧】参照）の切手を貼り、申込者の郵便番号、住所、氏名を記入した角形2号の返信用封筒を、本学への往信用封筒に同封し、下記の請求先住所に郵送で請求してください。

往信用封筒の表には、「一般入試学生募集要項請求」、「推薦入試学生募集要項請求」等の請求する資料名を正確に朱書きするとともに、連絡のつく電話番号を同封してください。（資料名が不明確な場合、配布開始前の場合、返信用封筒の切手が不足する場合等のお問い合わせに利用します。）

※往信用封筒の大きさは、返信用封筒が入ればどのような大きさでもかまいません。

※郵送での請求の場合、原則として本学に返信用封筒が到着した翌日の発送となります。

請求先住所	〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地 大分大学学生支援部入試課 宛
-------	--

【郵便料金一覧】

募集要項等	普通料金（円）	速達料金（円）
一般入試学生募集要項	400	780
一般入試学生募集要項＋大学案内	600	980
推薦入試学生募集要項	400	780
経済学部AO入試学生募集要項	250	530
医学部医学科AO入試学生募集要項	400	780
特別入試学生募集要項（帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試）	250	530
医学部看護学科社会人入試学生募集要項	250	530
大学案内（受験者向けパンフレット）	250	530

(3) 大分大学学生支援部入試課の窓口で受領

学生支援部入試課の窓口で募集要項の配布を行っています。

- ① 配布場所 大分大学学生支援部入試課（大分市大字旦野原 700 番地）
- ② 配布時間 8:30～17:15（土日、祝日、夏季一斉休業期間、年末年始休業期間を除く。）
- ③ お問い合わせ先 TEL 097-554-7519

(4) 電話（テレメール）で請求

テレメールのサービスを利用して、自動音声応答電話で募集要項及び大学案内を請求することができます。

IP 電話 050-8601-0101

※請求方法は、音声ガイダンスに従ってください。

資料名	資料請求番号
一般入試学生募集要項	587852
一般学生募集要項＋大学案内	547952
推薦入試学生募集要項	587862
経済学部AO入試学生募集要項	547972
医学部医学科AO入試学生募集要項	547992
特別入試学生募集要項（帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試）	564982
大学案内（受験者向けパンフレット）	587882

※テレメールでの資料請求に関するお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102（9:30～18:00）

○ 募集要項請求に関するお問い合わせ先

大分大学学生支援部入試課

TEL 097-554-7519

入学者選抜試験に関する問い合わせ先

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192

おおいたしおおあざだんのはる
大分市大字巨野原700番地

TEL 097-554-7471

FAX 097-554-7472

ホームページ <http://www.oita-u.ac.jp/>